

報告

平成23年度

郡市医師会介護保険担当理事連絡協議会

常任理事・地域福祉部長 前川 勲

本連絡協議会は、北海道医師会の年度事業として、郡市医師会の介護保険担当者を対象に年度内1回開催されている。本年度の協議会は3月3日(土)に札幌グランドホテルで開催され、44名が参加した。以下に当日の内容について報告する。

日医介護保険委員会報告

平成22年7月、日本医師会長から委員会に「介護保険における医療との連携-介護報酬改定を見据えて-」が諮問された。この2年間に10回の委員会がもたれた。委員会では、各委員からの提案事項についての説明・討論がなされ、次回の委員会までに議事録として論点が整理されている。平成23年12月の委員会において、これまでに提案されたすべての内容が論点として整理された。

委員長・副委員長によって2年間の提案、審議内容は、①介護保険施設等について、②多様な住まいについて、③在宅医療・介護の推進について、④その他(リハビリテーション、認知症ケア、在宅医療など)の各項目別に整理され、答申書成案「地域を支える医療と介護の連携を目指して」が作成された。今後、介護体制が在宅ケアへと転換が進むことを念頭に、介護施設の役割の明確化、施設での医療の在り方、リハビリの位置付け、介護療養病床廃止後の受け皿の問題など、多岐な内容である。

なお本答申は、平成24年3月21日の「日本医師会・第12回理事会」において三上常任理事より報告され、了承を得た。

特別講演

「認知症の非薬物療法について～リハビリテーションを中心に～」と題して、東京都医師会理事の平川博之先生から講演が行われた。講師の平川博之先生は、八王子を拠点として診療所・老健・デイサービス・地域包括支援センターなど多くの介護施設を主宰している精神科医である。東京都医師会の理事として、また日医介護保険委員会委員として活躍されているが、さらに精神障害者の社会復帰・介護職

員のキャリアアップ・認知症関連などの「国・東京都からの補助金事業」を平成19年度から委託され、研究成果をまとめられている。

特に班研究「認知症短期集中リハビリテーションの効果的な実施に関する研究」をこれまで継続的に行っており、本講演会でもこの研究成果を中心に講演していただいた。

「短期集中リハビリテーション」は「脳活性化リハビリ」と位置付けられるが、共通課題として「読み・書き・計算」という児童の教育プログラムと同じようなりハビリである。リハビリ群と対象群の比較では、ADLの変化、臨床的認知症スコア(長谷川式、NM式)、問題行動、DBD(認知症行動障害度)、意欲などにおいて、すべてリハビリ群で有意の改善を認めた。これらの成績は、脳の活性化が起こることを医学的、科学的な共通の尺度(エビデンスとして)で判定し、有用性を明らかにしたという点で大変興味深い臨床研究であった。

この研究成果が評価され「認知症短期集中リハビリテーション」は、従来、老健(軽度認知症)にのみのものであり、介護報酬上60単位であったが、平成21年の介護報酬改定で介護療養医療施設・通所リハビリテーションにも適応が拡大され240単位が算定可となり、さらに対象が中等度・重度認知症にも拡大された。

脳の活性化を認知症治療(リハビリテーション)に応用するという考え方は、「老化は幼児化と共通である」というまさに「コロンブスの卵」的な発想であると感じた。また認知症治療においては、患者を抑制するのではなく活性化させるという視点が重要であるという考え方を強調された。さらに認知症家族とのコ・ワークの重要性にも触れられた。

認知症治療薬が次々と開発されてきている昨今であるが、患者・家族を含めた「心の医療・介護」の必要性を痛感した講演であった。



講師 平川博之先生